



TITLE:

京大広報 No. 258

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 258. 京大広報 1983, 258: 401-410

ISSUE DATE:

1983-09-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209428>

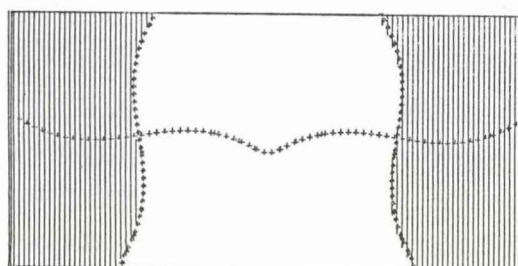
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

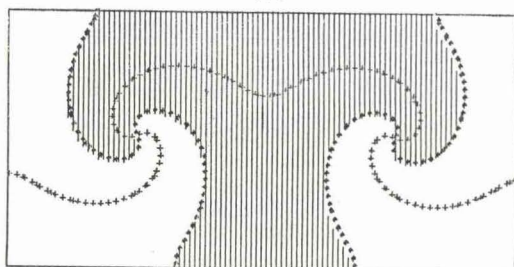
京大広報

No. 258

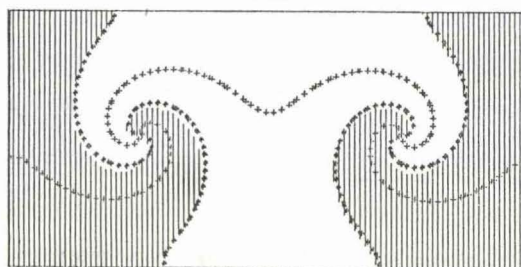
京都大学広報委員会



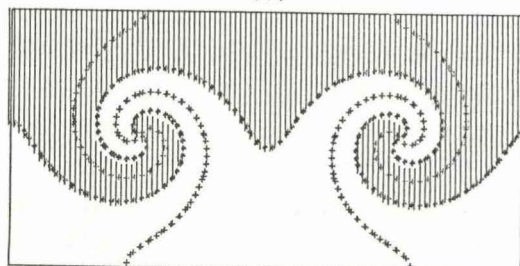
(1)



(2)



(3)



(4)

モデル化学反応系における渦模様形成のコンピューター・シミュレーション (1~4は時間的な順序)
—関連記事本文405ページ—

目次

昭和58年度京都大学市民講座

「自然と生命」の開催…………… 402

工学部公開講座「生活と工学」…………… 402

公開パネル討論会「青年期

——出立の危機をめぐって——」…………… 403

公開講座「高等学校教員のための

現代化学」…………… 403

数学入門公開講座…………… 403

公開講座「農業簿記・農業経営講習会」…………… 404

人文科学研究所夏期公開講座

「異文化接触の諸相」…………… 404

公開講座「高等学校教育関係者

のための現代数学展望」…………… 404

公開講座「木材の科学」…………… 404

故池田峰夫教授の

工学部数理工学教室追悼式…………… 405

故阪口吉蔵教授の

医療技術短期大学追悼式…………… 405

故木村 廉名誉教授の

医学部微生物学教室追悼式…………… 405

<紹介>

基礎物理学研究所

統計物理学研究部門…………… 405

<随想>

無 題

名誉教授 武藤一雄…………… 407

<資料>

昭和58年度新設の組織・大型設備・建物…………… 408

国立大学教官等の待遇改善

に関する要望書…………… 409

計報・日誌…………… 410

<大学の動き>

昭和58年度京都大学市民講座

「自然と生命」の開催

本学では、来る10月15日、29日、11月5日の各土曜日に広く一般市民を対象とする「京都大学市民講座」を開催する。

本講座は、財団法人京大会館楽友会の協力の下に、昭和54年以来毎年開かれていたもので、今年

度は「自然と生命」を共通テーマに、総合大学の特色を生かして学問の諸領域にわたる講義が行われる。

受講定員 330名、受講料 1,500円。

申込みは往復はがきに住所、氏名、年令、職業、電話番号を記入（返信用には郵便番号、あて名を記入）のうえ、9月24日（土）までに庶務部庶務課学務掛（内線2041）へ。

日程は次のとおりであり、会場は農学部 W100 講義室である。

日 程	講 義	講 師
第1日 10月15日（土） 13：00～16：30	開 講 あ い さ つ	総 長 沢 田 敏 男
	日 本 の 祭 り	教養部 教授 米 山 俊 直
	ウ イ ル ス と が ん	ウイルス研究所 教授 畑 中 正 一
第2日 10月29日（土） 13：00～16：30	木 は 語 る	木材研究所 教授 島 地 謙
	無 意 識 の 世 界	教育学部 教授 河 合 隼 雄
第3日 11月5日（土） 13：00～16：30	健 康 と 病 気 と 経 済	経済学部 助教授 西 村 周 三
	生き物はどこまで操作できるか —バイオテクノロジーの限界と問題点—	理学部 教授 岡 田 節 人
	閉 講 あ い さ つ	工学部長 近 藤 良 夫

<部局の動き>

工学部公開講座

「生活と工学」

工学部では、さる6月18日から7月9日までの毎週土曜日（午後1時から6時）、工学部大会議室において、公開講座を開催した。

テーマは「生活と工学」である。この公開講座は、一般市民を対象に工学部の教授、助教授が各自の研究分野における工学の進歩と生活とのかかわり合いをわかりやすく解説することを主眼とし

たものであり、100余名が受講した。講義題目、講師は次のとおりであった。

エネルギーと生活
鉱物資源の将来
新しいセラミックス
これからのエンジン
コンピュータと社会
心臓病とコンピュータ
都市交通システムのあり方
生活と大気環境

吉田 善一
日下部吉彦
大田 陸夫
池上 詢
富田 眞治
桑原 道義
佐佐木 綱
平岡 正勝
(工学部)

公開パネル討論会

「青年期—出立の危機をめぐって—」

7月2日(土)午後1時30分から5時まで、保健管理センターと学生懇話室との共催で「青年期—出立の危機をめぐって—」をテーマに、経済学部特別講義室において公開パネル討論会が開かれた。次の5名の話題提供者に約100名の参加者をえて、理論的、臨床的見地から活発な討論が行われた。

司会 梅本堯夫(教育学部)

さまざまな青年期 藤縄 昭(教養部)

学生相談を通してみた青年の悩み

梶中 達(保健管理センター)

出立の危機—ジャン ジャック

ルソーの青春—

中川久定(文学部)

青年期の心身症性表現

宮田祥子(保健管理センター)

学生期の身体的特質

小川隆三(保健診療所)

(保健管理センター
学生懇話室)

公開講座

「高等学校教員のための現代化学」

実験を伴う学問分野で高等学校の教育に当る先生方は、研究現場の雰囲気と接する機会が一般的に少ない。これを補うことを目的として、理学部化学教室は、標記の公開講座を7月25日から30日まで実施した。同教室内で行われている研究の諸分野の中から、実験・演習を中心として講座を構成し、近畿一円、遠くは四国からの参加もあり、30名が受講した。終了時の懇談会では率直な意見が交換され、受講者からは今後もこの公開講座を続けてほしいという強い希望が出された。

なお、講座の構成は次のとおりであった。

I. 講義(午前10時から12時)

自然界における存在状態の解析と計測

波多野博行

最新の有機合成反応の動向

加治 有恒

代謝制御

香月 裕彦

分子と磁性

広田 襄

水の話

山本 常信

金属の表面構造と反応

恩地 勝

II. 実験・演習(午後1時から5時)

各受講者は下記5つのコースから1つを選んだ。

A. 分子の電子状態と磁気共鳴

広田 襄 丸山 和博

大矢 博昭 山内 清語

B. 有機化合物の構造と反応性

谷利 陸平 山本 嘉則

田中 和彦 小野 昇

C. 表面原子構造の観察

恩地 勝 西嶋 光昭

D. 原子吸光分析, イオン選択電極, クロマト

グラフィー

波多野博行 桑本 融

岡崎 敏 中山英一郎

E. 高圧力と反応加速

佐々木宗夫 志田 忠正

原 公彦 中原 勝

(理学部)

数学入門公開講座

数理解析研究所では、7月26日から8月4日まで(午後1時15分から4時30分。7月30日、31日を除く)、数理解析研究所4階大講演室において「数学入門公開講座」を開催した。

この公開講座は、ある程度数学の素養のある社会人、中学・高校教員、学生等を対象に、専門的題材をわかりやすく解説しようとするものであり、講座には約120名が受講した。講義題目、講師は次のとおりであった。

暗号の数理
カオスとフラクタル

一松 信
宇敷 重広
(教養部)

グラフ理論と素粒子
接図形と無限小解析

中西 襄
松浦 重武

(数理解析研究所)

公 開 講 座

「農業簿記・農業経営講習会」

農学部・農業簿記研究施設では、8月1日から6日までの間、農学部講義室において公開講座「第47回農業簿記・農業経営講習会」を開催した。

この講習会は、農業簿記とそれに基づく農業経営の分析・診断・計画に関する理論と実務の普及をねらいとしたものである。講習には農業改良普及員、高校教員、府県・各種団体職員、農家など全国各地から約110名が参加し、連日午前9時から午後5時まで受講した。講義科目、講師は次のとおりであった。

農家経済簿記および農家経済の分析・診断

菊池 泰次 桂 利夫

農業経営複式簿記

阿部 亮耳 稲本 志良

農業投資および資金の計画・管理・分析

亀谷 晃 稲本 志良

地域農業および農業経営の分析・診断・計画

西村 博行 吉田 忠

熊谷 宏

(農学部)

人文科学研究所夏期公開講座

「異文化接触の諸相」

人文科学研究所では恒例の夏期公開講座を8月1日から3日間（午前9時から12時）本館において開催した。

34回目を数える本年度の講座は、「異文化接触の諸相」を共通テーマとし、西洋部・東洋部・日

本部各2名の講師により次の通り行われた。連日約100名の受講者があり盛況裡に終了した。

中世ヨーロッパと地中海世界 甚野 尚志
儀礼と象徴

—古代インドの世界から— 井狩 彌介
土の伝統と木の伝統

—中国建築の形成— 田中 淡
二つのユートピア 小野 和子

出版文化の可能性

—貸本屋の機能を中心に—

Peter Kornicki

シベリアの旅

吉田 光邦

(人文科学研究所)

公 開 講 座

「高等学校教育関係者のための現代数学展望」

理学部数学教室では、8月4日から10日まで日曜日を除く6日間（午後1時から5時10分）、標記の公開講座を開催した。この公開講座は毎年夏休みに開催されており、その目的は、高等学校の数学教育の関係者に対して、数学の最近の発展の意味と内容の一端を解説することである。本年は5年目で、約40名が受講した。講義題目と講師は次のとおりであった。

現代数学の生成と発展

吉澤 尚明

初等整数論の話題

永田 雅宜

代数幾何の話

西田 吾郎

解析学の話

山口 昌哉

(理学部)

公 開 講 座

「木材の科学」

木材研究所と農学部林産工学教室は合同で8月17日から19日までの3日間（午前9時30分から午後6時30分）の公開講座を開催した。

この講座は、毎年継続して行行予定で昨年から実施されており、主として中学及び工業高校の技術担当教員を対象とし、実験室の雰囲気の中で、木材研究の最近の成果と展望の若干にふれてもらうことを意図したものである。今回は27名の受講者があった。

講座のスケジュールは第一日を合同講義にて、第二、第三日を各研究室における分属セミナーとした。それぞれのテーマ及び担当者は次のとおりであった。

合同講義（8月17日）

木材の組織——光顕から電顕へ

原田 浩（農 学 部）

肉眼による樹種の識別（含実習）

佐伯 浩（農 学 部）

木材の化学——成分と化学的利用

越島哲夫（木材研究所）

木材の物理的性質

則元 京（木材研究所）

分属セミナー（8月18日，19日）

木材における超ミクロの世界

木材構造学講座

木材成分の分析と化学的利用

木 材 化 学 部 門

木材のプラスチック化

木材加工材料学
講 座

発掘された古代の木材の性質

木材化学工学講座

木材の官能特性と物理的性質

木 材 工 学 講 座

木の機能と情緒の係わり

木 材 物 理 部 門

木材の生物劣化とその防止

木 材 防 腐 防 虫
実 験 施 設

間伐材の利用——積層材料への転換

木質材料部門

（木材研究所）
（農 学 部）

故 池 田 峰 夫 教 授 の

工学部数理工学教室追悼式

5月27日逝去された故池田峰夫教授の追悼式が工学部数理工学教室主催により、7月16日（土）午後2時から3時30分まで、本学部大会議室において執り行われた。

（工学部）

故 阪 口 吉 蔵 教 授 の

医療技術短期大学部追悼式

6月27日逝去された故阪口吉蔵教授の追悼式が医療技術短期大学部主催により、8月4日（木）午後1時30分から2時40分まで、本短期大学部大講義室において執り行われた。

（医療技術短期大学部）

故 木 村 廉 名 誉 教 授 の

医学部微生物学教室追悼式

5月28日逝去された故木村 廉名誉教授の追悼式が医学部微生物学教室 主催により、8月7日（日）午後2時から3時20分まで、楽友会館において執り行われた。

（医学部）

< 紹 介 >

基 礎 物 理 学 研 究 所

統 計 物 理 学 研 究 部 門

私たちの身の周りにあるさまざまな物質はすべて莫大な数の粒子（原子，分子など）からなっ

おり、これらの粒子は互いに力を及ぼしあいながら複雑な乱れた運動をしている。この運動を徹視的に見ると、粒子数があまりに多く運動がきわめて複雑であるために、個々の粒子の運動法則はわかっていても、全粒子の運動を詳細に追うことは到底できない。一方、私たちが測定等によって知りうる物質の性質は、多くの場合、比熱や電気伝導

度のような物質全体の示す巨視的な性質である。このような物質の巨視的な性質を理解するには、微視的な粒子運動についてその詳細を知る必要はなく、そのある種の平均を知りさえすればよい。

このように、多数の粒子の集団についてその平均的な性質を知ろうとすると、たとえば人工衛星の軌道を求めるような通常の決定論的な力学の問題とは全く異なる研究方法が有力な役割を果たすことになる。それは確率・統計的方法であり、統計力学または統計物理学と呼ばれる。

統計物理学は19世紀以降発展してきた分野であり、現在では物質の性質が時間的に変動しない場合（平衡状態）、および変動がゆるやかで平衡にごく近い場合については、方法として完成しているといつてよい。とくに最近、たとえば水が0℃で凍るように、物質の性質がある温度で急に不連続な変化を起す現象、いわゆる相転移の理解について大きな進歩を遂げた。

物理学においては、私たちの身の周りにある巨視的な物質ばかりでなく、原子核や素粒子も対象とする。これらの系はすべて多数の粒子で構成されている。すなわち、原子核は多数の核子により構成されており、素粒子の世界ではさまざまな基本粒子が相互作用し、生成・消滅を繰り返している。このように物理学の対象の多くは、多粒子の集団として統計物理学の対象となる。とくに最近の素粒子論の発展において、統計物理学の概念の果たした役割は大きい。このような意味においても、統計物理学は基礎物理学の重要な一分野である。

上述のように、統計物理学は平衡状態および平衡からわずかに離れた状態については完成されたといつてよい。しかし、たとえば流れている流体のように、体系が物質やエネルギーの流れの中に置かれ、しかも平衡からのはずれが大きい場合については、十分解明されていない問題が多い。この分野においても、最近新しい発展が見られた。中でも目ざましい現象は、こうした非平衡開放系に特徴的な巨視的秩序形成である。これは一見、秩序から無秩序への不可逆変化という自然の傾向を保障する熱力学第二法則に矛盾するようであるが、実は何ら矛盾はなく、むしろ生命体に見られるような、高度の秩序形成およびその維持能力の

物理的基礎を与えるものと考えられる。現在の非平衡統計物理学の一分野は、すでにこのような問題に挑戦しつつある。具体的には、雪の結晶の形成に典型的に見られるような、結晶成長の問題、非平衡流体や、開放化学反応系におけるパターン形成などを通じて、秩序形成の具体的なメカニズムや普遍的な法則性を明らかにしつつある。表紙の図はその一例であって、ある種の化学反応系において反応が進行する様子を、コンピュータでシミュレートしたものである。図で線を引いた部分は、化学物質の濃度の高い領域を示す。時間が経過し反応が進行するとともに、領域がきれいな渦模様を形成していくことがわかる。

非平衡開放系におけるもうひとつの新しい問題は、いわゆる「カオス」に関するものである。再び流体を例にとれば、管中の流れがあまり強くなると、もはや秩序だった流れのパターンはなくなり、いわゆる乱流状態が出現する。このように、非平衡開放系では、しばしば巨視的レベルにおいても、予測不可能な乱れた運動が決定論的な運動法則から生じることが最近明らかとなり、これをカオスと呼んでいる。ここ数年間に、カオスの研究は、国際的にも急速に進展し、単に統計物理学のみならず、数学、化学、大気物理学、理論生物学等の一部をも含めた広大な学際的領域を形成しつつある。しかし、決定論的な意味で予測不可能な現象を自然科学的に把握できるのは、行きつくところ、確率的記述、即ち、カオスの統計力学の建設以外になく、この意味において、従来の統計力学とは全く面目を一新した統計力学の分野がまさに生れようとしていると言っても過言ではない。

本研究所の統計物理学研究部門は、昭和55年4月、7年の時限付き部門として新設された。以来、非平衡統計物理学の研究を活発に続けている。本年度は、基礎物理学研究所創立30周年記念行事の一環として、国際シンポジウム「カオスと統計力学」を文部省の援助を得て開催した。上に述べた最近の学問的動向からも推察できるように、統計物理学研究部門の重要性は従来にもまして高まりつつあり、今後における研究の進展とその成果が大いに期待されている。

（基礎物理学研究所）

<資 料>

昭和58年度新設の
組織・大型設備・建物

今年度新設された専攻、講座、部門、大型設備及び竣工（予定）の建物は次のとおりである。

専 攻

研究科	専 攻	講 座
工学研究科	分子工学 専 攻 (独立専攻)	基 幹 講 座 分子設計学 分子物性工学 分子エネルギー工学 協 力 講 座 分子触媒工学 応用分子科学 応用物性工学 分子材料科学

講 座

部 局	講 座	備 考
教育学部	児童青年心理学	
法学部	現代外国法	大 講 座

研究部門

部 局	研究部門	備 考
化学研究所	抗癌医薬開発	各研究部門は 昭和68年3月31日 まで存続 (時限10年)
食糧科学研究所	食品プロセス	
経済研究所	比較経済分析 (外国人客員)	
放射線生物研究センター	晩 発 効 果	
医用高分子研究センター	実 験 外 科	医用高分子研究センターは昭和65年3月31日まで存続(時限10年)

大型設備

部 局	設 備
理 学 部	トーラス型プラズマ実験装置
工 学 部	超強力X線回折装置
医学部附属病院	放射性同位元素コンピューター断層撮影装置
超高層電波研究センター	M U レ ー ダ ー 装 置
ヘリオトロン核融合研究センター	ヘリオトロンE用加熱計測装置

竣工建物

建築施設名	延面積	竣工(予定)時 期	備 考
附 属 図 書 館	14,011 m ²	昭. 58. 10. 20	地上4階 地下2階
医学部図書館書庫	250	59. 3. 20	地上2階
工学部理工学科舎	2,010	59. 3. 30	地上4階 地下1階
農学部農業工学科 水 理 実 験 棟 (舞鶴市)	580	59. 3. 30	平 屋
農 学 部 附属水産実験所 水産生物標本館 実習宿泊施設 (舞鶴市)	1,860 480	59. 3. 10 59. 3. 10	地上3階 地上2階
結核胸部疾患 研究所研究棟	1,463	58. 6. 30	地上5階 地下1階
東南アジア研究 センター研究棟	910	59. 3. 30	地上4階
ヘリオトロン核融 合研究センター 加 熱 実 験 棟 (宇治市)	1,850	59. 3. 30	地上2階
医 用 高 分 子 研究センター 実 験 研 究 棟	2,273	58. 6. 30	地上5階
医 療 技 術 短期大学部校舎	2,920	58. 8. 31	地上5階 地下1階

国立大学教官等の待遇 改善に関する要望書

国立大学協会第72回総会において、「国立大学教官等の待遇改善に関する要望書」が決議され、文部大臣と人事院総裁に提出された。

要望書は、以下のとおりである。

昭和58年6月21日

国立大学協会会長

平 野 龍 一

国立大学教官等の待遇改善に関する要望書について

国立大学教官等の待遇改善に関し、このたび当協会第72回総会において別紙のとおり要望書が決議されましたので、ここにこれを提出いたします。

つきましては、国立大学教官等の待遇の現状とその改善の緊要性にかんがみ、右要望書の趣旨が速やかに実現されるよう特段のご配慮をお願いいたします。

国立大学教官等の待遇改善に関する要望書

現在、人事院において、国家公務員の給与ならびに処遇のあり方について抜本的見直し作業が進められ、一応の成案が作成されたと聞いているが、この一環として、大学教官等の給与・処遇の改善についても、当国立大学協会の意見を汲み取り、特段に配慮されることを強く要望する。

1. 教育職(-)の俸給体系の是正を図り、併せて俸給水準の引上げを行うこと。

大学教官の俸給をその職責にふさわしい水準に引上げるよう特段の配慮を引続き要望する。と同時に、俸給の上下格差を縮小する方向で、早期に最高俸給に到達できるよう措置されたい。

その際、現行俸給表に修正を加え、助教授のほか講師も、2等級とし、両等級の一本化を図ること、これに応じて、助手を3等級に格上げし、教育職(-)俸給表の等級数の縮減を図ることが是非とも必要である。

なお、その際、大学院修了者の初任給格付けについては、修学年数1年を1.5号に調整する現行制度を引続き維持されたい。

2. 大学教官特有な職務に見合う手当として「大学研究調整額」(仮称)を新設すること。

周知のように、義務教育教員には、教職調整額、医療職については初任給調整手当など特別な手当がその職務の特殊性に基づいて支給されている。

大学教官にも研究・教育上の特殊性に基づいて実験・実習、フィールド・ワークなど多様な職務を遂行するなどの特別な負担がある。

よつて、国家公務員給与のうちの各種の手当について再検討、見直しを加える中で、こうした大学教官特有の職務遂行に見合う特別な手当を新設し、これをすべての大学教官に適用し、支給されるよう措置されることをとくに配慮されたい。

3. 部局長(学生部長等を含む)のすべてについて指定職の完全適用を図ること。

部局長等は、その職責からして指定職の適用を受けるのが当然の措置であるが、未だ定数が必ずしも十分ではないために、すべての部局長等が指定職の適用を受けているわけではない。

よつて、この際、部局長等については、現行の管理職手当の適用をやめ、指定職制度の主旨を生かしてすべての部局長等にその在職期間中指定職俸給が適用できるよう特段に措置されたい。

4. 管理職手当の適用対象を拡大すること。

近年、大学における管理運営の職責がますます重くなりつつある実情にかんがみ、現行の管理職手当制度の見直しを図りながら、評議員、全学段階の委員等の学内教育行政の激戦にあるものには、その職務の内容や任用の手続きを明確化したうえで管理職手当支給の途を開くようとくに配慮されたい。

5. 研究教育関係職員等の待遇の抜本的改善を図ること。

大学における研究・教育を十分に遂行するためには、大学特有の専門職である教務職員・技術職員および図書館職員等の果す役割は大きく、とりわけ、近年、研究・教育または情報処理の機器が極度に高度化・専門化してきたことなどから、これらの職員の職責が重要性をましたけだけではなく、その資質の向上が強く求められてきている。

にもかかわらず、これらの職員の待遇は十分ではなく、しかも給与に頭打ちがあることなどのために、有為な人材を確保することが著しく困難な状況にあり、研究・教育の発達にも支障を来している。

こうした問題を抜本的に改善するために、当国立大学協会は「研究技術専門官」職階という別建の俸給表の新設を内容とする待遇改善案を昭和53年度にまとめ、関係機関へ「要望書」を提出した。

これについては、関係機関では、具体的実現の方向で準備作業に取りかかれ、他の類似の専門技術職を合せて「専門技術職俸給表(仮称)」を新設する案が作成されたと聞いているが、当協会の要望をできるかぎり取り入れるよう特段に配慮されたい。

また、これと類似の職責を大学に勤務する職員が遂行している実情にかんがみ、これらの職員にも特別の配慮を要望する。

計 報

小林 年夫 (防災研究所技官)

9月3日逝去, 57歳。昭和26年防災研究所勤務。昭和56年本学永年勤続者表彰 (30年勤続) を受ける。

渡邊宗太郎 (本学名誉教授・法学博士)

9月4日逝去, 89歳。本学法学部卒。昭和6年本学法学部教授就任, 同20年退官。その間法学部長 (昭和18年~20年) を併任。昭和51年勲二等瑞宝章受章。専門は行政法。

日 誌

(1983年6月1日~8月31日)

- | | |
|--|--|
| 6月1日 同和問題委員会 | ぐってー」(保健管理センター, 学生懇話室) |
| 2日 総長, 職員組合との交渉に出席 | 5日 評議会 |
| 〃 中華人民共和国西北師範大学 張 昌言 学長
外1名来学, 総長と懇談 | 〃 創立記念行事「学術講演会」 |
| 3日 ウイルス研究所学術講演会 | 8日 環境保全委員会 |
| 〃 マレーシア学術視察代表団団長 Malaya 大学
Ahmad Nawawi 学長補佐外5名来学, 関係
教官と懇談及び学内施設見学 (4日まで) | 12日 発明審議委員会 |
| 4日 故服部峻治郎名誉教授の医学部小児科学教室
追悼式 | 16日 故池田峰夫教授の工学部数理工学教室追悼式 |
| 7日 安全委員会 | 20日 国際交流委員会 |
| 8日 理学部附属瀬戸臨海実験所研究棟及び実習宿
泊棟落成式 | 25日 学位授与式 |
| 13日 総長, 大学院生協議会と会見 | 〃 理学部化学教室公開講座「高等学校教員のため
の現代化学」(7月30日まで) |
| 14日 大学院審議会 | 26日 数理解析研究所数学入門公開講座 (8月4日
まで) |
| 15日 国際交流委員会 | 28日 国際交流会館委員会 |
| 17日 創立記念行事「音楽会」 | 8月1日 農学部附属農業簿記研究施設公開講座「農業
簿記・農業経営講習会」(8月6日まで) |
| 18日 創立86周年記念式 | 〃 人文科学研究所夏期公開講座「異文化接触の
諸相」(8月3日まで) |
| 〃 名誉教授懇談会 | 4日 理学部数学教室公開講座「高等学校教育関係
者のための現代数学展望」(8月10日まで) |
| 〃 工学部公開講座「生活と工学」第1日 (6月
25日, 7月2日, 7月9日) | 〃 故阪口吉蔵教授の医療技術短期大学部追悼式 |
| 24日 附属図書館商議会 | 7日 故木村 廉名誉教授の医学部微生物学教室追
悼式 |
| 25日 理学部 玉城嘉十郎教授記念公開学術講演会 | 17日 農学部林産工学教室, 木材研究所公開講座
「木材の科学」(8月19日まで) |
| 28日 建築委員会 | 25日 発明審議委員会 |
| 7月2日 公開パネル討論会「青年期一出立の危機をめ | |